

令和5年度 授業改善推進プラン 社会科

①「大田区学習効果測定」結果の分析と課題（昨年度の改善策の結果分析も含む） ※3年生はワークテスト及び授業の様子からの分析

3年	【知識・技能】	大田区の地形や特徴を資料から読み取ることが難しい児童が多い。地図から必要な情報を読み取ることが難しい児童が多い。
	【思考・判断・表現】	見学や、学習で分かったことなどを多くの児童がワークシートに記入し、新聞を作成することができた。
	【主体的に学習に取り組む態度】	スーパーマーケットで働く人々の工夫について多くの児童が気付くことができた。ただし、その工夫が、どのような思いの基にされているのかを考えることには課題がある。
4年	【知識・技能】	地図記号についての問題の正答率が低い。火災発生時の通報のしくみについての理解を問う問題の正答率が低い。市の様子の移り変わりについて資料を読み取る問題の正答率も低い。スーパーマーケットで働く人の工夫についての問題の正答率が高い。
	【思考・判断・表現】	市の様子について、土地の様子に着目して考え、表現する問題の正答率が低い。記述式の問題を解答することに課題がある。
	【主体的に学習に取り組む態度】	交通事故防止のための工夫の理解をもとに、安全マップを読み取ろうとしている。市の様子について、土地の様子に着目して表現しようとする態度に課題がある。
5年	【知識・技能】	すべての学級において、区平均を下回った。特に、都道府県の様子についての正答率が低い。グラフを読み取ったり、2つの資料の関連性を捉えたりすることに課題がある。
	【思考・判断・表現】	多くの領域で、区平均を下回った。資料に着目し、取り上げられている事例を自分の生活にも身近なこととして捉え、思考する意識が低いことが考えられる。
	【主体的に学習に取り組む態度】	地図や資料を読み取って考える問題の正答率が低い。日頃の学習から地図やグラフなどの資料に親しみ、自分の地域や時事問題と関連付けようとする態度に課題がある。
6年	【知識・技能】	わずかながら、区平均を下回った。国土の領域について特に正答率が低く、地形の位置や名称等、既習の内容が定着していない。また、用語の理解や資料、グラフの読み取りに課題が残る。
	【思考・判断・表現】	区平均、全国平均を上回っていたが、国土や産業の領域について特に正答率が低い。資料を基に事実や変化を説明することに課題が残る。
	【主体的に学習に取り組む態度】	わずかながら、区平均を下回った。国土や産業、自然環境の領域について特に正答率が低い。学習した内容や資料、グラフをもとに、自分に身近な事象ととらえ、考えをもつことに課題がある。

②授業改善策

- 3年
- ・資料から分かること、資料が伝えたいことを考え、ノートにまとめ発表し、共有していく。
 - ・大田区の様子や特徴について、社会科見学や区の資料等を活用し理解できるようにしていく。
 - ・身近で働く人々の仕事について、日常生活と結びつけて、理解の定着を図る。
- 4年
- ・地図帳を日常的に活用し、地図記号や方位、都道府県の名称と位置を繰り返し指導して、知識の定着を図る。
 - ・資料から情報を正しく読み取り、その理由を考えさせる。
 - ・資料から考えられることをノートにまとめたり、友達と話し合ったりする。
- 5年
- ・地図帳を日常的に開かせ、地図記号や方位、県名を繰り返し指導し、知識の定着を図る。
 - ・資料から読み取れたことを、グループや全体で比較検討し、自分なりにまとめる。
 - ・表やグラフの目的に応じた見方や読み取りに慣れさせる。
 - ・調べたことをノートや新聞にまとめるだけでなく、それに対する自分の考えを書き、他者に向けて発表する活動を取り入れ、学習したことを自分に身近なこととして捉える習慣をつける。
- 6年
- ・地図に触れる機会を増やし、单元ごとにミニテストを行ったりして内容の理解を深める。
 - ・個人の活動とグループ検討を織り交ぜながら、グラフや写真、絵図などの資料から読み取れることは何か記述したり、説明したりする機会を設ける。
 - ・資料やグラフの読み取りをする機会を増やす。様々な事象に関して調べる活動を通して、問いに対する自分の考えをノートにまとめたり、発表したりする活動を行う。